

ESLに参加して

総合管理学部 1年 瀧谷文

私は、2月20日から3月20日の1か月間、熊本県立大学の協定校であるモンタナ州立大学への短期研修団として、アメリカに行ってきました。

この短期研修に参加しようと思った理由は2つあります。1つ目は、学生の時にしかできないことをしたいと思ったからです。外国へ行くことは、大人になってもできることですが、英語力の向上はもちろん、学生である今しかできない体験があるのではないかと思います。2つ目は、日本の文化とアメリカの文化はどのように違うのかを知りたかったからです。これまで耳にしていたアメリカの文化を体験することができてとてもうれしく思います。

私は、他に参加した学生よりも英語力がなく、うまくやっていけるのか不安が大きかったです。ですが、ビルングスの空港についたとき、ホストファミリーが温かく迎えてくれたため、安心感に包まれました。ホストファミリーの会話が速くて最初のほうは全然理解できませんでしたが、生活をしていくうちに耳が慣れ、徐々に聞き取れるようになりました。

研修の内容は平日が、朝8時半～5時まで大学へ行き、昼2時半までスピーキング・リスニング・ライティングの勉強をしました。その後は、アメリカの伝統料理やお菓子を作ったり、美術館や博物館へ行って、絵画や工芸品、先住民の生活、歴史などを学んだりしました。最終的なプレゼンテーションでは、アメリカの文化について、短期留学を終えて、という内容の発表をしました。英語での発表と聞き手が大学の先生でとても緊張しました。先生と話すときに、伝えたいことを英語で表現できず英語力のなさを痛感しました。そのため、授業中の会話を聞いて、表現を覚えたり、ジェスチャーを使ったりして、積極的に話すよう心掛けました。自分の意志をきちんと伝えるということはとても大事なことだと改めて感じました。



休日はホストファミリーと過ごしました。特に印象に残っていることは、世界遺産に登



録されているイエローストーン国立公園に泊りがけでいったことです。そこで私たちはスノーシューを履いて、山道を歩いたり、温泉が湧いている川に入ったりしました。あたり一面に広がる壮大な自然に圧倒され、また、日本では見られない、バイソンやハクトウワシを見ることができました。言葉に表すこと

ができないほどの大自然に触れ、日本ではできないような貴重な体験をすることができました。

ホームステイでは、戸惑うこともたくさんありました。けれど、ホストファミリーがとてもやさしくしてくださったため、不安は徐々になくなりました。毎週末は、いろんなところに連れていってもらったり、家で日本食を作ったりしました。私に話すスピードを合わせてくれて、私が話すときも、単語を並べる英語が多かったですが、それでも理解してくれたことに感謝しています。研修後半のほうになると、ホストファミリーに「あやの英語は上手になっている。自信をもって!」といわれたとき、とても嬉しかったです。ホストファミリーにはいくら感謝しても足りないぐらいお世話になったため、いつかもっと英語力をあげて必ず会いに行くという目標ができました。

今回の研修は、私にとってとても大きな財産となりました。研修で多くの方と出会えることができました。現地の学生や、先生方、ホームステイ先の家族の友人など、話す機会が多くありました。そして、一緒に研修に参加した友達と仲良くなることができました。話すうえで、失敗を恐れず積極的にコミュニケーションをとることはとても大事と学ぶことができました。行ってみなければわからないことを多く体験でき、アメリカに行って考え方が違う人と触れ合うことで、自分になかったものを得ることは大きく、英語を話せるようになりたいという目標ができました。英語ができないからいけない、という考えは必要ないと思います。行く前と、行った後では、自分の中での変化はとても大きいです。学部、英語力関係なしに、興味がある方は参加してほしいと思える研修でした。